

聖霊降臨節第10主日礼拝＜平和聖日＞ 8月1日（日）

題 『平和の福音』

テキスト：エフェソの信徒への手紙2章14～22節

親愛なる皆さん、おはようございます！

今年もセミの声が良く聞こえます。8月がやって来ました。

厳しい暑さの中、平和を思う月です。

オリンピックのお祭り気分の中、デルタ型コロナ感染急拡大の不安の不安定な日本と世界の状況です。主の憐みを祈ります。

さて、今日の週報にも載せた詩を読みます。

「ちちをかえせ ははをかえせ、

としよりをかえせ

こどもをかえせ

わたしをかえせ わたしにつながる

にんげんをかえせ

にんげんの にんげんのよのあるかぎり

くずれぬ へいわを へいわをかえせ」

この「にんげんをかえせ」と呼ばれる「原爆詩集」は詩人である峠 三吉の詩です。女優の吉永小百合さんは、全国で原爆の悲惨さを詩の朗読で伝えられておられますが、この峠 三吉の詩をいつも最初に朗読されるそうです。それだけインパクトのある詩であると思われます。

峠 三吉は1945年（昭和20年）8月6日、爆心地より3kmの広島市翠町（現在の南区翠）で被爆しました。そして被爆から8年後の36歳の若さで亡くなりました。1951年（昭和26年）にはこの「にんげんをかえせ」で始まる『原爆詩集』を自費出版、原爆被害を告発しその体験を広めた。この原爆詩集は、峠三吉の叫びでもあると受けとめるのです。

ところで、「1945年8月6日に広島に原爆が投下された直後に、放射性物質を含む、いわゆる「黒い雨」を浴びて（井伏鱒二による「黒い雨」という有名な小説もあります。）健康被害を受けたとして住民たちが訴えた裁判で、広島高等裁判所は昨年7月の一審・広島地方裁判所の判決（原告全員を法律で定める被爆者と認め、被爆者健康手帳を交付するよう命じました。この判決は1945年、76年前の「黒い雨」をめぐる裁判で、被爆者と認める判決は初めてのことでした。広島高等裁判所はこの判決を支持して、国から手帳の交付事務を任されている広島県と広島市の控訴を棄却しました。その後、政府は不服として

上告を検討していましたが今回上告を取消しました。

政府が上告しなかった理由は色々言われていますが良かったと思います。

黒い雨の被害を受けた方々にやっと被爆者健康手帳が交付されることになるのです。

今日の宣教の題は「平和の福音」とつけました。平和の大切さを思います。この時、伝道者パウロの言葉を記した今日の聖書のことばに聞きたいと願います。

16:十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。

わたしたち個人にも、国と国にも「敵意という隔ての壁」があることを思います。どの世界にも対立関係はあります。無理解、無視、憎み合いや争いがあります。

パウロは、「神は十字架によって敵意を滅ぼされましたと言うのです。

14:実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、15:規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、と。

今日は、共に真の平和は主イエスの十字架によってなったこと、なることを覚えたいのです。

主イエスの十字架から個人の救いと人類の救いは来る、起こるということです。

14 節に「敵意という隔ての壁」とあります。

この「敵意という隔ての壁」の「隔ての壁」ということでパウロが思っていたのは、今から約2000年前のエルサレムあった神を礼拝する神殿の、ユダヤ人と異邦人つまり外国人を隔てていた高さ1.5メートルの石でできた壁のことだと言われます。

ユダヤ人は神に選ばれた民として、隔ての壁を通して神殿内部に入ることはできましたが、ユダヤ人ではない外国人は、異邦人と呼ばれユダヤ人からは蔑まれていたようです。その人たちは「隔ての壁」で仕切られた神殿内部には入ることはできませんでした。もし入ったら当時の規則で死刑にあたるのです。

ですからこの「隔ての壁」は、敵意、軽蔑、差別の象徴でもあったのです。この隔ての壁ゆえに、外国人は神を礼拝することも赦されなかったのです。今日、わたしたちの中にも、世界中に、気がつかなくても、様々な「隔ての壁」

があるのではないのでしょうか、それは人の心の中から出て来るのです。  
マタイによる福音書 15 章 18 節以下に記された主イエスの言葉を思い出します。「18:しかし、口から出て来るものは、心から出て来るので、これこそ人を汚す。19:悪意、殺意、姦淫、みだらな行い、盗み、偽証、悪口などは、心から出て来るからである。」 わたしたちも、どんな人も、自分の心を神に清めて頂く必要があるのです。実は、平和を壊すものは、人間の心の中にある醜い思いから出て来るということです。これを解決しないと真に平和は地上に実現しないのです。

その醜い心が敵を生み出し、平和を壊す力となり、ついに世界を破壊していくのです。対立が生まれて深まり、憎しみ、敵意、ついには争いになるのです。その最たるものは戦争です。戦争は、いくら正義のため、自由のため、国ためと言っても人と人の殺し合い、自然を破壊して行くだけなのです。

主イエス・キリストにあっては、主イエスの十字架の前には、ユダヤ人と異邦人、外国人はみなひとつとなれるのです。共に造り主なる神を礼拝できるのです。民族の違いは問題ないのです。今や主イエスの十字架によって神の前に、人間同士の隔ての壁は壊されたのです。主イエスにあっては皆が神の家族となれるのです。いや神の家族になったのです。なっているのです。主イエスの十字架は、全人類のために平和をもたらす恵みの力なのです。

十字架の前で、人間のエゴイズムや国家のエゴイズムが暴かれます。

同時に、再生への救いが示されているのです。主イエスは十字架に死んで復活されたのです。死んで死に勝利されたと言えます。十字架から復活、新しい命が生きる道が始まるのです。

神は、主イエスの十字架、十字架の愛によって、わたしたち一人一人を、人類と世界を平和の道へと導いてくださるのです。

人類みんなが主イエスの十字架の元でつながっていることを思えば、それぞれの違いを認めつつ歩めることはまだ可能なことなのです。

「主イエスの十字架わがためなり、人類のためなり。」との篤い思いと深い知恵を持ってわたしたち今日の日から歩み出したいと願います。

- 14: 実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、
- 15: 規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、
- 16: 十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。
- 17: キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。
- 18: それで、このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができます。
- 19: 従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、
- 20: 使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、
- 21: キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。
- 22: キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです。